

令和4年度第2回三郷町総合教育会議

令和4年10月18日

事務局

本日は、大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

ただ今より、令和4年度「第2回三郷町総合教育会議」を開催させていただきます。また、今回の会議は【全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」への取り組みについて】、副題といたしまして、【「インクルーシブ教育システム」の構築】とし、FSS35キャンパスでの視察とさせていただきます。総合教育会議が設置され、初じめての視察となります。「百聞は一見にしかず」とも申しますが、この機会にぜひ、三郷町の6大事業の1つであるFSS35キャンパスを体験いただければと思います。

それでは、始めに開会にあたりまして、森町長よりご挨拶を申し上げます。

町長（森 宏範）

皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中、三郷町総合教育会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、先ほどもご説明させていただいたとおり全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」への取り組みについて】、副題といたしまして、【「インクルーシブ教育システム」の構築】を議題とさせていただきます。

さて、4年前大学の撤退が決まった後、大学跡地の活用について専門学校などに声をかけさせていただきましたが、最初の2年間は本当にどこに声をかけてもだめでした。そのような中で、大学全体をもう少し区分けをしていこうという話がでてきました。そこで、三郷町では「生涯活躍のまち」をコンセプトにしました。もとはCCRCという中高年の移住支援を内閣府が総合戦略とし、その後「生涯活躍のまち」として方針を転換させたものとなります。私はこの「生涯活躍のまち」とはどういうものかということ勉強し、誰もが活躍できる場所、障がいがあっても無くても、高齢者であっても子どもであっても、女性であっても男性であっても、日本人であっても外国人であっても、全ての方々が活躍できる場所。非常に難しいことではありますが、やりがいのあ

るまちづくりであるというところに着眼点をおきました。

その後、奈良学園大学との協議の中でこの大学跡地をもう少し小分けにして公募しては、という案がでてきました。まちづくりのコンセプトさえしっかりしていれば必ず応募してくる団体等はあると考えておりましたので、そういった中で、現在のような形が出来上がってまいりました。

また、この跡地は以前、大学でございましたので、学生主体のキャンパスでした。しかし、これからは住民主体のキャンパスとして生まれ変わります。もともとはこのキャンパスにどの団体に入っていただくのかというところから、住民の方のために、このキャンパスをどうしたらよいかということを考えてまいりました。この成果が来年春には見えてくるのかなと思っております。

そして、今回副題としてインクルーシブ教育システムの構築としております。この文部科学省が出しているインクルーシブ教育システムというのは、仲間外れにしない、みんな一緒という意味なんですが、これは学校に限ったこととなりますので、三郷町では全てのことを含めたインクルーシブとしてとらまえようと考えました。ですので、資料にもありますようにボーダレスはインクルーシブを同じ意味だと考えています。インクルーシブ、イコール、ボーダレスだと。そして、参考資料を配布させていただいております。分かりやすく説明が書かれておりますので、参考にしていただければと思います。特にインクルーシブのなかで、障がいのある方や外国人の方などに配慮をすることはもちろんなのですが、分離したりするのではなく、最終の理想的な形として、区切らない。このことを実現しようとするとなかなか難しく、時間もかかります。今日この会議で議論していただきたいのは、三郷町の住民の方すべてを対象としたインクルーシブであること、学校だけでなく地域全体としたインクルーシブということの認識をしていただかないといけないのではないのかなと思いつながら、本日の説明を聞いていただければと思います。わずかな時間ではございますが、よろしくお願ひします。本日どうもありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。

それでは、引き続き担当課より説明をしていただきますので、よろしくお願ひいたします。

担当課（まちづくり推進課）

おはようございます。まちづくり推進課の谷と申します。よろしくお願いたします。

それでは、FSS35キャンパスについて説明をさせていただきます。

まず【全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」】とは、内閣府で推進をしているもので、女性、高齢者、障がい者など誰もが一人ひとりの個性と多様性が尊重され、それぞれの希望に応じた能力を発揮することで、居場所と役割をもってつながり、生涯を通じて健康でアクティブに活躍することによって活性化するコミュニティづくりを目指すというものでございます。本町では全員が主人公みんなイキイキボーダレスコミュニティFSS35キャンパスをコンセプトに内閣府の【全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」】の検討事例紹介としてホームページに掲載されています。目指す将来像として、本年3月末の奈良学園大学三郷キャンパスの移転に伴い、跡地を未来技術・SDGs・共生社会この3つを柱にFSS35キャンパスと命名し、【全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」】の核となるエリアと設定しました。さらに、ICTの活用と未来技術を用いたエリアの利便性向上に取り組むとともに、SDGs未来都市として、基本理念である「誰一人取り残さない社会」の実現を基に、年齢・国籍・人種・障がいの有無に関係なく、全ての方がイキイキと学び働き、生活し、活躍し、交流するボーダレスコミュニティの【全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」】を創造することを目指しています。また、将来像の実現に向けて、どの機関に相談があったとしても町全体で受け止める相談体制を構築しており、地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業にも取り組んでおります。

FSS35キャンパスの活用方針をご覧ください。キャンパス内を健康交流ゾーン、教育研究ゾーン、産業振興ゾーンの3つのゾーンに分けて活用いたします。各施設の活用につきましては、官民連携として医療法人藤井会、社会福祉法人檸檬会、奈良学園大学と連携をしながら実施していきます。

計画内容としましては、1号館はサービス付き高齢者住宅、検討段階ではありますが看護多機能小規模施設、医療的ケア児デイサービスなどの検討をしております。2号館はカフェテリア。5号館は障がい者、高齢者の就労支援施設、児童福祉施設、海外国立大学のサテライトキャンパス、保育士・介護福祉

士の専門学校となっております。6号館は海外からの留学生を受け入れる日本語学校。7号館はブックカフェ、交流体験型ミュージアム、保育・教育・福祉に関する研究所等と予定であります。3、8号館につきましては、奈良学園大学が引き続き、野球部・マーチングバンド部が利用をされます。3号館は体育館となります。10号館はサテライトオフィス、奥のグラウンドは町で整備し、スポーツパークとして来年4月に供用開始予定でございます。

それでは、スポーツパークと7号館の交流・体験型ミュージアムにつきまして、担当をしておりますまちづくり推進課の寺林から説明をさせていただきます。

皆さんおはようございます。まちづくり推進課の寺林です。よろしくお願いたします。

私からは、住民の方のキャンパスに変わるというところで、主に住民の方に利用していただく施設について説明をさせていただきます。

まず、FSS35キャンパススポーツパークの整備では、多目的広場をイメージしており、子どもや高齢者の方も利用していただけるものを考えております。そして、屋内練習場はもともとは大学の野球部が雨天時の練習に使用しておりました。この場所では、町内の少年野球やソフトボールチームが雨天時に使用できればと考えております。つづきまして、スケートボードとBMXですが、どちらも東京オリンピックで大変注目されたものです。しかし現在、練習場が無く、道路で練習をしている状況でございますので、住民の方より要望をいただいたものでございます。このようなセクションといわれるものを精通している三郷町商工会青年部の方、そして住民の方と一緒に設計、実施をしているところです。このようなパークは近隣にはなく、町内の子どもたちはもちろんのこと町外からも利用される方を望めるものとなっております。次に、バスケットコートを1面整備します。この整備につきましては、プロバスケットチームバンビシャス奈良のメインスポンサーであるロート製薬より企業版ふるさと納税として寄附いただきました。整備後はバンビシャス奈良と一緒に子どものバスケット教室のイベント等を開催し、利用の促進を図りたいと考えております。最後に、テニスコートですが現在2面の土のクレーコートがあり、これを人工芝のコートに整備します。健民グラウンドにあった4面のテニスコート

が2面になったこともあり、今回F S S 3 5キャンパスのスポーツパークにテニスコートを整備することで、住民の方の利用も促進されるものと考えています。次に、木のおもちゃ美術館の説明をいたします。冒頭、森町長のあいさつにもございましたが、こちらをインクルーシブ教育の拠点施設として整備を検討しております。ご紹介の写真は、徳島県にあるおもちゃ美術館であります。このおもちゃ美術館は現在、全国で9か所ございます。関西にはまだありませんので、本町で整備できれば関西初のおもちゃ美術館となります。そして、このおもちゃ美術館のコンセプトは「0歳から100歳まで楽しむことができる」というものでございまして、子どもはもちろんのこと高齢者にとっても認知症予防につながると言われています。徳島県のおもちゃ美術館では、乳幼児・乳児が遊ぶことができるスペース、乳児だけでなく高齢者も一緒に遊ぶことができるスペース、そして渦潮をイメージした滑り台の設置もございます。このように、おもちゃ美術館では、地域をイメージした遊具を設置していることも特徴でございます。私自身も家族で利用をした際、子どもが長い時間飽きずにこのおもちゃ美術館で遊んでいた姿を見て、本当にこの施設が子ども目線に立った、誰でも楽しむことができる施設であると実感しました。その他、この施設には「おもちゃ学芸員」という方がおられます。その方々が、遊びに来ている子どもたちと一緒に遊び、木のおもちゃの使い方や遊び方を教えていただけるようになっております。また、おもちゃ学芸員をされる方は、地域のご年配方等が勤められており、世代間交流の場にもなっているものと感じました。三郷町では、このような誰しもう楽しむことができる場をインクルーシブ教育の場として、整備を進めていきたいと考えております。

次に、生涯活躍のまちを進めるにあたり、誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくりということで、国で求める生涯活躍のまちでは大きく4つの役割がございます。まず、交流の場所を築くこと、活躍の場をつくること、健康につながることで、住まいの機能をもつこと、この4つの役割をもって生涯活躍のまちと国では示しております。そして、F S S 3 5キャンパスにおいては、この4つの役割をもった施設が入ってくることによって、十分にこの生涯活躍のまちというコンセプトが満たされるものと考えております。また、コミュニティづくりでございますので、これら施設を整備し、企業等が入ってきた後、住民の方同士が交流をしていただく、それぞれの施設ごとに、ではなくキャンパ

ス全体で交流していただくことが必要となってきます。そのために、今後どうすればよいかということを考えていきたいと思っております。

最後に、その他特徴的な役割として、このキャンパスを脱炭素の先行地域として、環境省に申請しております。このエリアでは、再生可能エネルギーを活用して、二酸化炭素の排出を「ゼロ」にします。三郷町では2050年に町内全域で二酸化炭素排出量を「ゼロ」にすることを目標に掲げています。その核エリアとして、FSS35キャンパスのゼロカーボン化を進めていき、生涯活躍のまちにプラスして、脱炭素地域としても進めていきたいと考えています。

以上になります。ご清聴ありがとうございました。

全体エリアの説明は以上となりますので、次に現地見学にうつらせていただきたいと思っております。

~~~~FSS35キャンパス1、2、5、7号館を見学~~~~

### 【現地説明会と視察の様子】



### 【質疑応答】

(教育委員) 2号館(カフェテリア)の上の階にはどんな施設がはいりますか？

→現在、未定です。

(教育委員) F S S 3 5キャンパスへの交通手段は？

→J R三郷駅からバスルートの確保を検討しています。

(教育委員) F S S 3 5キャンパスは子どもたちの利用も検討されているので、三郷町役場からスポーツパークに行くことができるなどの交通手段を確保してほしい。

→今後、みなさんと一緒に検討をしていきたいと思っております。また、その他にも検討案を考えていきたいと思っております。

(教育委員) F S S 3 5キャンパスの災害時の区域指定はどうなっていますか？

→一部、土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)部分がありますが、大半は土砂災害警戒区域(イエローゾーン)となります。

### 事務局

以上をもちまして、令和4年度 第2回総合教育会議を閉会いたします。

本日は長時間にわたり、どうもありがとうございました。